

佐賀県研究成果情報

| | | | | | |
|--|-----|-----|-----|-----|--|
| 雨よけ栽培における高品質温州ミカン生産のためのビニル被覆管理 | | | | | |
| [要約] ハウスミカン施設において、加温を行わず梅雨入り前に天井部を完全被覆して降雨制御を行うことで、品質向上に必要な水分ストレスが付与され高品質果実生産が行える。 | | | | | |
| 果樹試験場・常緑果樹研究担当係 | | | | 連絡先 | 0952 - 73 - 2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp |
| 部会名 | 果 樹 | 専 門 | 栽 培 | 対 象 | ハウスミカン |

[背景・ねらい]

ハウスミカン栽培においては加温用A重油価格が高騰しており、収益性向上のために単収や商品化率の向上が重要な課題となっている。しかしながらハウスや加温機の老朽化、樹の老木化等で収益確保が困難な園地もあり、加温栽培以外の対応が必要となっている。そこで露地条件で栽培しビニル被覆による降雨制御で水分ストレスを付与して高品質果実生産を行う、雨よけ栽培の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 梅雨入り前の6月中旬に被覆を行うと、8月上旬前には品質向上に必要な水分ストレスが付与され、高糖度な果実生産が行える。一方、梅雨後被覆では水分ストレスが付与されにくく低糖果となる(図1、図2)。
2. 天井部を完全に被覆して降雨制御を行うことで、品質向上に必要な水分ストレスが付与され高糖度な果実生産が行える。一方、部分的な被覆を行い園内に降雨が流入すると水分ストレスが付与されず低糖果となる。(図3、図4)
3. 梅雨入り前に天井部を完全被覆して降雨制御することで、平均糖度12度以上で外観良好な果実生産が行える。(表1)

[成果の活用・留意点]

1. ハウスミカンの基準で着果させると、着果過多となり小玉果や隔年結果の原因となるため、摘果は露地ミカンに準じて行う。また定期的な品質調査を行い、露地ミカンの品質基準を参考にかん水管理を行う。
2. 連年生産を行うためには樹勢の維持向上が重要であるため、マルチ栽培に準じた施肥と収穫後のかん水、土壌改良を実施する。
3. ビニル被覆の際に巻き上げ機を設置して適宜開閉可能にすることで、夏季の高温防止が図れる。
4. 外部からの雨水の流入等で園地周辺部の品質が上がりにくい場合があるため、排水溝の整備やマルチ被覆等で品質低下を極力防止する。

[具体的データ]

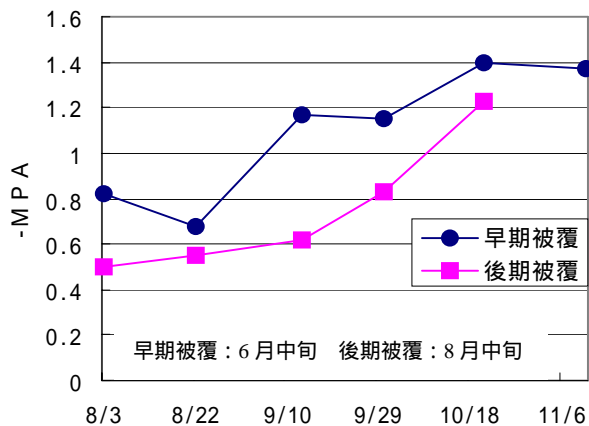


図1 被覆時期と葉の水ポテンシャル推移
(宮川早生 2005)

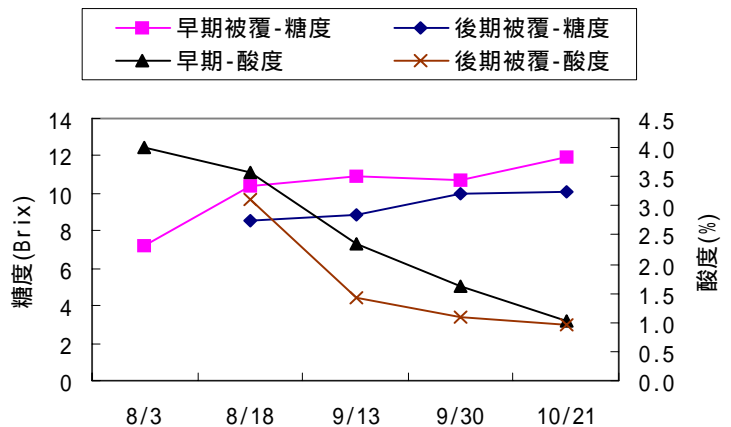


図2 被覆時期と果実品質の推移
(宮川早生 2005)

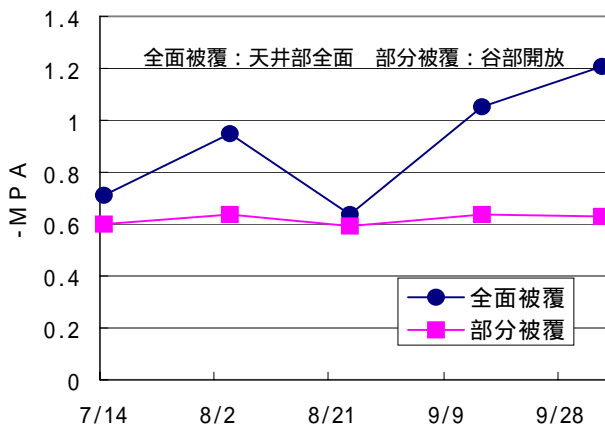


図3 被覆方法と葉の水ポテンシャル推移
(上野早生 2006)

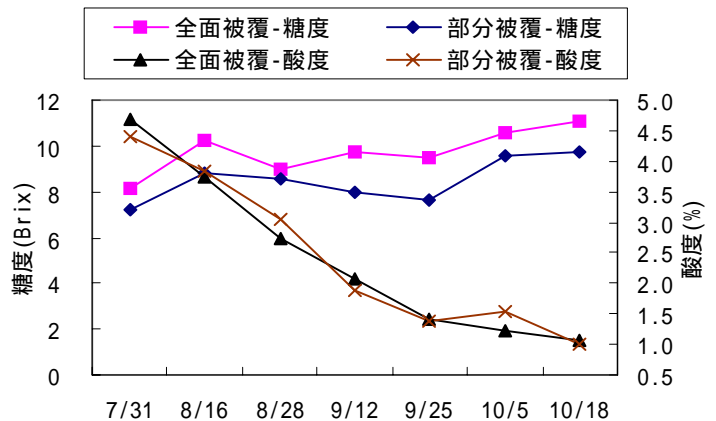


図4 被覆方法と果実品質の推移
(上野早生 2006)

表1 早期・完全被覆園の出荷実態 (宮川早生 2005)

| 出荷量 (Kg/10a) | 秀品 (Kg) | 優品以下 (Kg) | 糖度 (Brix) | 酸度 (%) | 階級割合 (%) | | | |
|-----------------|---------------|--------------|--------------|-----------|----------|------|------|------|
| | | | | | L | M | S | SS |
| 2,935 | 2,730 (93) | 205 (7) | 13.5 | 0.71 | 5.3 | 24.1 | 40.8 | 23.6 |

* 出荷日: 11/15 ~ 11/28、秀品: 糖度12度以上、酸度1.0%以下で外観良好な果実

[その他]

研究課題名: ハウスミカン生産経費削減緊急対策試験、ハウスミカン栽培における省エネルギー化技術の構築

予算区分: 県単

研究期間: 2005 ~ 2006年

研究担当者: 池田繁成、新堂高広

発表論文等: 平成17年常緑果樹成績概要集、平成18年常緑果樹成績概要集